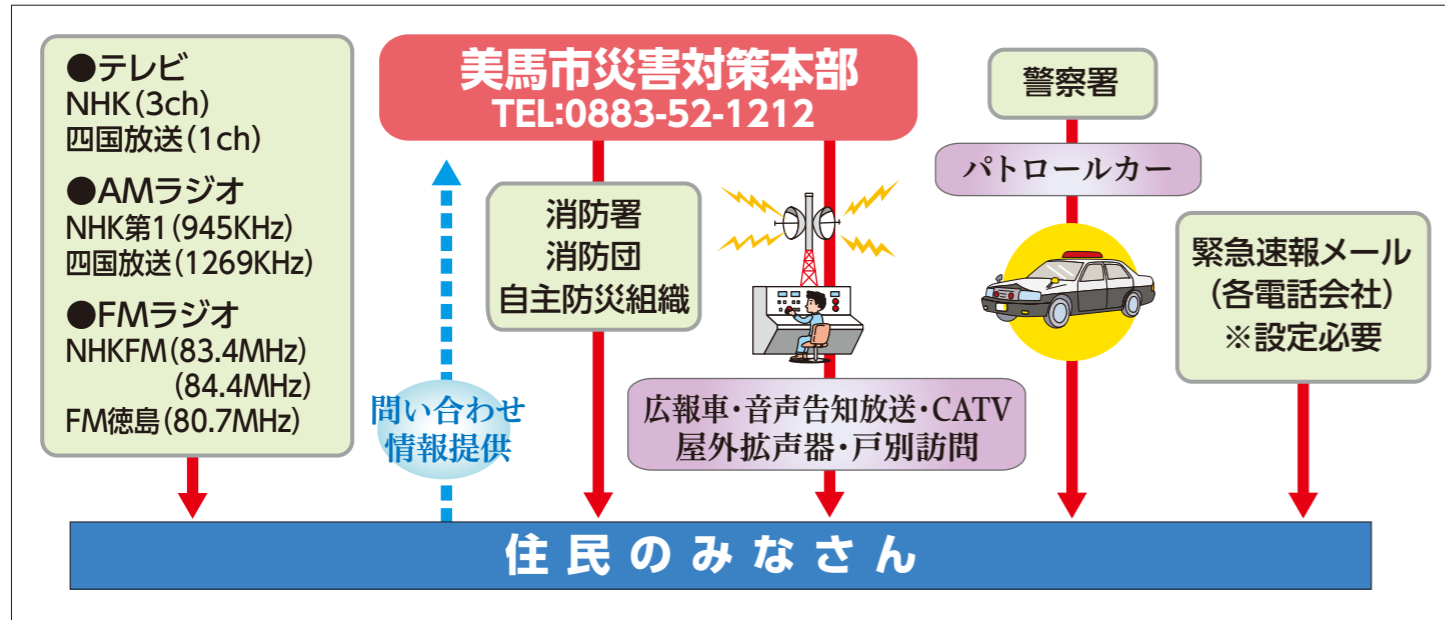


正しい情報での確な行動

避難情報の伝達経路



気象情報の入手方法

雨が強くなってきたら、積極的に雨量情報、予報、警報等の情報を入手しましょう。

インターネット

■ 吉野川ライブ映像 [検索](#)

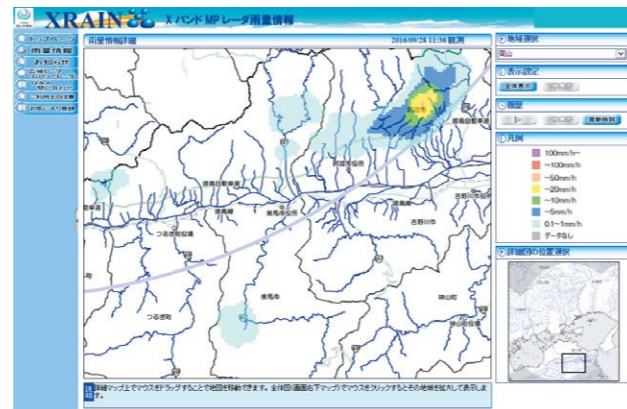
<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/streaming/streaming.html>

■ 川の防災情報 [検索](#)

パソコン <http://www.river.go.jp/>
 スマートフォン <http://www.river.go.jp/s/>
 携帯電話 <http://i.river.go.jp/p/>



携帯電話のQRコード



●川の防災情報のXバンドMPレーダー
リアルタイムで刻々と変わる雨の状況が閲覧できるので、日常生活にも役に立ちます。

XRAIN [検索](#)

テレビ

■ 地上デジタル放送の(dボタン)

避難情報に注意!

危険が迫ると避難の呼びかけがあります。ただ、集中豪雨や土砂災害は突然襲ってきます。避難の呼びかけがなくても、また地区によっては避難の距離が長くなるので危険を感じたら早めに避難しましょう。

避難準備情報

いつでも避難できるよう準備しましょう。テレビやラジオ、市役所などからの呼びかけに注意し、お年寄りや子どもはこの段階で早めに避難しましょう。



避難勧告

お互いに助け合って、指定された避難所に避難しましょう。火の始末、戸締りを点検しましょう。



避難指示

指定された避難所や安全な場所に直ちに避難しましょう。



美馬市の水害特性

吉野川の洪水予報

国土交通省と気象庁は共同で、大雨や強風などで災害が起こるおそれのあるときに「注意報」を、重大な災害が起こるおそれのあるときに「警報」を発表して、注意や警戒を呼びかけます。警報や注意報は、テレビ・ラジオを通じて住民の方々に伝えられます。

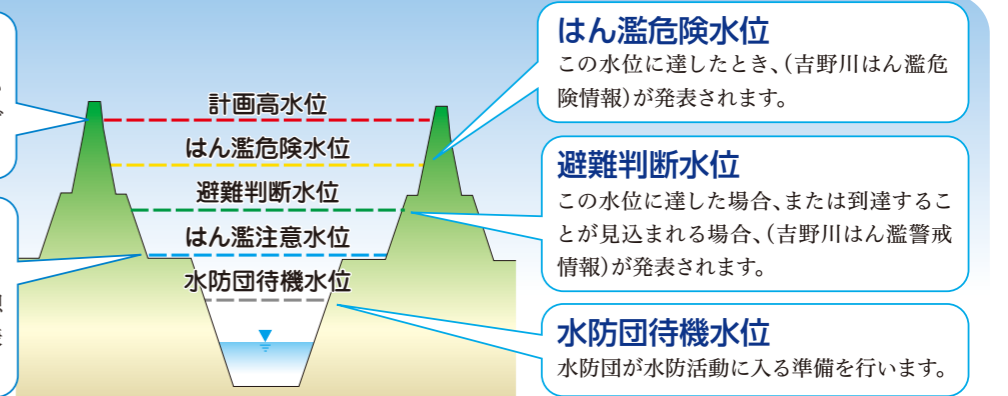


計画高水位

河川の計画上の水位なので堤防が完成していなければ、この水位より低い水位ではん濫などが発生する可能性があります。

はん濫注意水位

水防団が出動、または出動の準備に入ります。この水位に達する時、または超えることが予想される時は、(吉野川はん濫注意情報)が発表されます。



吉野川の洪水特性

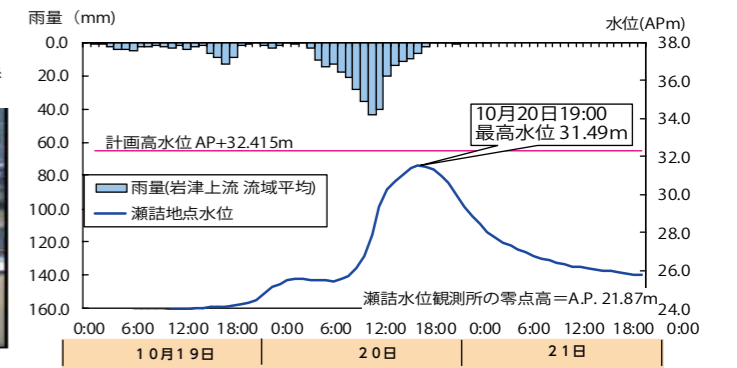
吉野川は過去から甚大な洪水被害を繰り返してきました。その流域は広く、いったん水害が起こると高い水位が長時間続きます。刻々と変化する情報に注意深く耳を傾けて、災害が起きる前に避難することが大切です。「逃げどき」が遅れると身動きが取れなくなることもあります。



美馬市穴吹町三島の内水はん濫

雨量の変化と吉野川の流量の関係(平成16年10月洪水)

徳島河川国道事務所資料



気象情報の種類と説明

警報・注意報の種類		説明
大雨	注意報	大雨により災害が起こるおそれがあると予想される場合に発表する予報
	警報	大雨により重大な災害の起こるおそれがあると予想される場合に発表する予報
	特別警報	大雨により重大な災害の起こるおそれが著しく大きいと予想される場合に発表する予報
洪水	注意報	洪水により災害が起こるおそれがあると予想される場合に発表する予報
	警報	洪水により重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合に発表する予報
土砂災害警戒情報		大雨による土砂災害発生の危険度が高まったとき、市町村長が避難勧告等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報
記録的短時間大雨情報		大雨警報が発表されている時に、数年に1回程度発生する激しい短時間の大雨を観測、または解析したことを発表する情報

風水害を知る

被害を軽くするには、注意すべき場所や状況、台風・豪雨時の動向をあらかじめ知っておくと効果的です。また、台風や豪雨はある程度、襲来の時期や規模などを予測することができるので、対策をとることが大切です。また、避難行動要支援者の避難支援方法についてあらかじめ把握しておくことも重要です。

こんな場所は水害に要注意!

河川に接する低い土地

河川に接する低い土地は豪雨時に河川があふれ出した場合、最初に浸水する場所です。周辺よりも低い土地には特に注意しましょう。



こんな時は水害に要注意!

台風するとき

強風による倒木や家屋の被害、台風ともなう強い雨による被害が出る危険性があります。テレビやラジオの情報に注意して避難の準備をしておきましょう。



造成地

地盤が不安定なため、豪雨時に地盤がゆるんで崩れる危険性があるので注意しましょう。



集中豪雨のとき

わずかな時間に狭い範囲で強い雨が降ると、排水しきれない雨水が一度に低い土地にたまって大きな被害につながることがあります。



土砂災害にも要注意!

集中豪雨や長雨などで地盤がゆるむと土砂災害が発生します。行政も様々な対策を行っていますが、地域の皆さんが危険を前もって察知し、すばやく行動することがなにより大切です。

- ・危険な場所を覚えておきましょう。
- ・手遅れになる前に、異変を感じたらすぐに対応しましょう。
- ・前ぶれに気づいたら近所の方や関係機関に連絡しましょう。
- ・犠牲者の半数以上を占めるのは、高齢者など避難行動要支援者です。「無駄でもかまわない」くらいの気持ちで移動時間を考えて早めに避難しましょう。



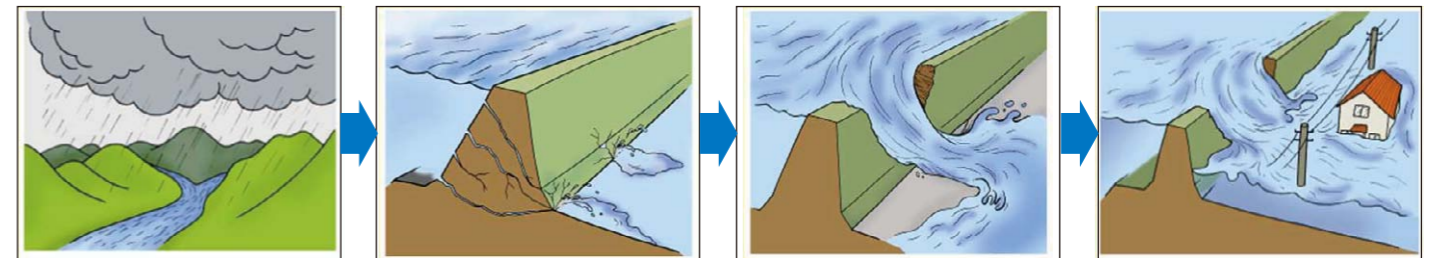
水害発生メカニズム

被害を軽くするには、注意すべき場所や状況、台風・豪雨時の動向をあらかじめ知っておくと効果的です。また、台風や豪雨はある程度、襲来の時期や規模などを予測することができるので、対策をとることが大切です。また、避難行動要支援者の避難支援方法についてあらかじめ把握しておくことも重要です。

河川の水を「外水」と呼ぶのに対し、堤防で守られた人が住んでいる場所にある水を「内水」と呼びます。

■ 外水はん濫

外水はん濫は、河川の堤防から水が溢れ又は決壊して、家屋や田畑が浸水することをいいます。外水はん濫が発生すると広い範囲が浸水して、大被害が発生する恐れがあるので特に注意が必要です。



大雨によって川の水が増え、水かさが増え始めます。

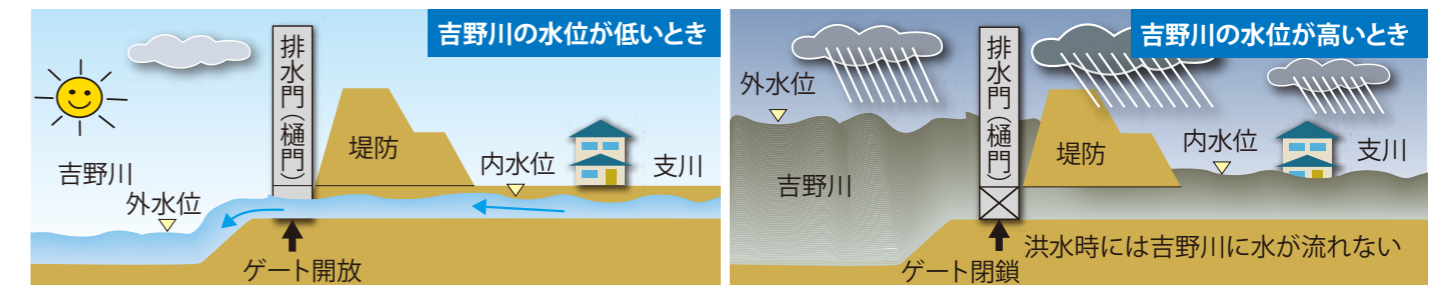
堤防いっぱいまで水が増え、堤防に水の圧力がかかり始めます。

水が増え、水の力に堤防が耐えられなくなり、堤防の一部が崩れ始めます。

崩れた場所は一気に拡がり、勢いよく水が流れ出し、家などに襲いかかります。

■ 内水はん濫

降った雨を排水処理できずに、建物や土地・道路が水につかってしまうことを「内水はん濫」といいます。外水はん濫と比べて、浸水規模は小さいですが、いたるところで発生しやすい特徴があります。



昭和49年9月洪水による吉野川のはん濫 (美馬市脇町)

雨の強さと降り方

1時間雨量	10~20ミリ やや強い雨	20~30ミリ 強い雨	30~50ミリ 激しい雨	50~80ミリ 非常に激しい雨	80ミリ~ 猛烈な雨
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。下水管から雨水があふれる。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

平均風速	10~15 メートル/秒	15~20 メートル/秒	20~25 メートル/秒	25~30 メートル/秒	30~ メートル/秒
建造物の被害	取り付けの不完全な看板やトン板が飛び始める。	ビニールハウスが壊れ始める。	鋼製シャッターが壊れ始める。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	ブロック塀が壊れ、取り付けの不完全な屋外外装材がはがれ、飛び始める。	屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊が始まる。